



から @埼玉 AD/HDのA君

## 通級指導教室 利用で前進

小学4年生の注意欠如・多動性障害(AD/HD)のA君。母親と来院しました。最近の学校生活を聞きます。「以前より、授業に集中して取り組めるようになった。友達とのトラブルが減った。板書が書けるようになってきた。そうした変化を担任の先生が認めてくれるので登校しやすい」。笑顔で話す息子の顔を見ながら、母親も「まだまだ注意したいことはあるけれど、自分から行動するようになったことがうれしいです」。

AD/HDは不注意、多動、衝動性を主な症状とする発達障害です。学童期の有病率は5%程度。知的には遅れがないのに学業不振に陥ることがあり、不適切な環境で育つと、不安障害やうつ病など二次的な精神症状などを示すことがあるため重大な社会的問題となっています。

A君は幼稚園の頃からじっとしていられず、心配した両親は周りに相談。「男の子だから元氣なだけ」と励まされ、小学校の普通クラスに入学しました。しかし、教室で席に座っていられず数人の先生に取り押さえられ大暴れ、友達とけんか——とトラブルが絶えず、1年生の2学期に私の外来を初診しました。

個別にお話しすれば、とても愛らしいフレンドリーな男の子。でも自分のしたいこと以外

は集中できず、規則を守れないなどの問題を抱えていました。

AD/HDの子どもたちはエネルギーに満ちあふれている半面、周囲から不適切な行動を叱られることが多く、自信を失ってしまいます。物忘れも多いことから「僕はどうせ馬鹿だから」などと諦めてしまいます。

診断の結果、A君には普通クラスの授業を受けながら、通級指導教室を利用するよう勧めました。最初は本人・両親ともに抵抗がありましたが、個別の学習補充だけではなく、ソーシャルスキル・トレーニングを受けることもでき、気持ちを落ち着けて過ごす時間が増えました。

このような環境調整と同時に、脳の前頭前野で働くドーパミン量低下がAD/HDの原因とされることから、ドーパミンを増やす作用のお薬を飲むことで、さらに行動がうまく制御できるようになりました。ただA君からは「薬を飲むと集中できるし、我慢できるようになって良いのだけれど、自分が自分でなくなってしまう気がする」とそんな発言がありました。

彼本来の天真らんまんな明るさを保ちながら、学校や家庭生活を送れるようにすることが、私の責務でもあります。

独協医大越谷病院  
子どもこころ診療セ  
ンター教授 作田亮一